

## 銭湯ライブ月の湯ナイト 1&2

2010.12.4/2015.6.20(東京都文京区月の湯にて)

尾形 明範

電子オルガンを、銭湯の、しかも浴室に持って行ってライブをしたらどうなるのか。著者は電子オルガンも銭湯も、極めて深く愛好している。しかし、このふたつの組み合わせは前例がなく、ほぼ実験に近いといってもよい。銭湯でのイベントといえば、せいぜい落語や寄席、音楽イベントだとしても、アコースティックやアカペラ程度に留まってしまっている。

感電はしないのか、電子オルガンを浴室にもって行って楽器が大丈夫なのか、果ては、演奏者は服を着ているのか、観客も着衣のまま大丈夫か、実にさまざまな心配をされてきた。

運搬、音響、上記懸念事項、ひとつひとつ地道にクリアするため月の湯ナイト1は準備に九ヶ月を要した。

～月の湯ナイト(月の湯ナイト1)～

2010.12.4(18:00～19:30)

ドリマトーンの奏者である今村陽子氏との共催である。また、月の湯ナイト1は、当会のテーマでもある「電子オルガンのメーカー間の枠組み」を取り払うにも通じるべく、浴室にエレクトーン ELX1、ドリマトーン DT9 を仲良く並べての開催となった。



どちらも楽器は各自の所有であり、各々の家からライブ当日に当日運搬されている。

開催当日は銭湯営業日ではないものの、18時開演の三時間前までデイサービスで浴室が使用されており、当然お湯も張られている状態であった。

浴室全体に湿り気が残っている状態をどのくらいでライブができる状態にもっていくことができるかのシミュレーションを、開催半年前に現場で行った。



デイサービス終了後、直ちにお湯の入った浴槽に直ちに蓋をし(風呂屋は必ず蓋を持っている)、浴室窓をすべて開放し、数名がかりでいっせいに浴室床をモップ掛けする。この間三十分程度である。銭湯の浴室の規模にもよるが、さほど大きくない月の湯クラスならばおおよそこの程度で、湯気でくぐもった浴室をひとしきりライブができる状態にできる。

電源はボイラー室にあるコンセントからドラム式のもの会場となる浴室に引っ張り込む。この際延長コードの使用には細心の注意を払う(接続部を床に接させない、絶縁効果のあるものを挟み込む)。

音響は、本体以外のスピーカーは接続せずに行った。ELXの場合はボリューム最大以下の85パーセント程度でも十分響き渡る音量であり、よく言われる「銭湯リバーブ」も効果が出ていたように思う。しかし、これは足元にスピーカーがある演奏者よりも、観客サイドのほうがその効果がよくわかったかもしれない。

客席は洗い場に「風呂屋で使用するイス」を30個程度使用し、臨場感も増した。しかし、開催中の浴室内の水周りを完全に遮断したわけではないため、カランに触れると水やお湯が出てしまうという場面もあった。もっともそれも想定範囲であり、楽器、コンセントとカランとの距離は、水やお湯の流れる方向と十分

な距離を保てるよう計算していた。

演奏楽曲も、あえてメーカーの垣根を狙って弾いたものもある。窪田宏氏の「THE ELECTRIC FUTURE」の FX1 バージョンの主旋律をドリマトーン DT9 でとった、「ドリマ de FUTURE」がまさにそれであった。銭湯という、なんでもさらけだして裸になってしまう場所には垣根などという言葉すらナンセンスなものであるという、著者の思いがまずこのライブの前提にあった。

著者は姫神せんせいしょんを中心とした演奏、今村氏は自身の得意とするプログレを中心とした演奏で、各々の世界を繰り広げた。

また、著者の友人であるオルガンプレーヤー陣岡正氏にもゲストとして岩手県より来ていただき、個性豊かな演奏で銭湯ライブ月の湯ナイトに華を添えた。

また、月の湯ナイトの名称であるが、月の湯+ナイトではなく、複数をひとつにするという意の unite(今回であればエレクトーンとドリマトーン)の、月の湯+unite で月の湯ナイトである。



写真・上記写真は東京都浴場組合の冊子 1010 の 108 号にも記事として掲載された。

#### ～月の湯ナイト 2～

2015.6.20(17:00～18:55)

月の湯ナイトより年月が経過し、第二回をいつやるかという機を逃してきたこともあって、自らその意志を固めるため、一般的に銭湯の浴槽の上にあるペンキ絵広告を、アクリル板を用いて著者が製作した。しかし広告が実に浴室内に飾られてから一年半後の 2015.4 に月の湯の廃業が間近に迫ったことを知らされる。準備にも十分な時間が確保できるか不安の大きいなか、所有者移行で退去期限ギリギリの 2015.6 のタイミングで月の湯ナイト 2 を行うに至った。



写真・画面左上のペンキ絵広告が実際に使用されていたものである(銭湯ライブ月の湯ナイト 尾形音楽研究所)。

月の湯ナイト 2 は準備時間の制約から、演奏は基本著者一人で行うこととし、数曲のセッションはごくこく身内のみで行った。

なお、1 では、リズムやバックイングの打ち込みは Midi シーケンサー上で入力したものを実際に現場に於いてシーケンサーで Midi を鳴らし、音声は ELX の端子に直接入力の形をとったが、2 では打ち込んだものを WAV 録音し、PRO TOOLS 上で一曲一曲を流す形を取った。この際、ミキサーに入る前に、いちど M-BOX PRO をはさんでいる。

オーディオ入力まわりを強化しようという、今回の対策がある意味あだとなり、リハーサル中に ELX のウーハー二本が破損するという事故が起きた。入力された音声と、ELX とのベースのバランスをとっている最中のことである。まるですべての楽曲のベースにディストーションがかかったような感じになってしまい、手持ちのガムテープでウーハーを囲むように貼り付け、とりあえずの処置とした。

この不測の事態にも手早く応急処置をし、以降、すべての楽曲をギリギリのところまでバランスをとってくれた PA 枝光健士氏にはあたまが下がる。

なお、この日の演奏曲目は窪田宏氏のものも多いが、編曲はすべて著者が元音源の細部に至るまでを再現しており、特に、ハービーハンコックの HANG UP YOUR HANG UPS は、同氏のライブ同様、曲中にラップやワンショットの音声を多数埋め込み、ほかのエレクトーンのライブとは一線を画した(協力・枝光氏)。



セッションコーナーでは 70 年代を風靡した「風」のナンバーから「夜の国道」を演奏、サビは片手で弾きながらマイクを持ってコーラス部分をハモった。

月の湯ナイトは、特に防音対策はしていない。住宅街にありながらも、所有者山田氏ならびに近隣住民の方々のご理解のおかげでライブが可能となった(もっとも、20 時には音を出せなくなるが)。

月の湯は映画、ドラマ、CM に多数使われているのもよく知られている。2010.3 公開の「時をかける少女」ロケでも使用され、主演の仲里依紗さん、中尾明慶さんも実際にここで入浴した。



写真・著者が 1585 軒入浴した銭湯のうち最も気に入っている二軒「月の湯」「高津湯」のうち、「月の湯」。

真っ青な富士山に ELX1 1003 号機が不思議と調和する。

映画で使用された劇中のこの曲を、最後、数人だけ残った関係者の前で演奏して締めたとき、月の湯ナイト 3 がもうないことに、各々に深い感慨が去来したはずである。数えきれない人たちの人生ドラマを、戦前の創業から静かに見守ってきた目白台のこの月の湯に、電子オルガンの音がこだますることは、もうない。



(敬称略/順不同)

「銭湯ライブ月の湯ナイト」  
 主催)月の湯ナイト実行委員会  
 ドリマトーン)今村陽子  
 エレクトーン)尾形明範  
 ピアニカほか)陣岡正  
 協力)鈴木調律事務所、MJ ピアノ

「銭湯ライブ月の湯ナイト 2」  
 主催)尾形音楽研究所  
 エレクトーン)尾形明範  
 GT)福島裕恭  
 VO)今井淳  
 PA)枝光健士  
 協力)鈴木調律事務所、藤波運送

写真提供)中村順之  
 場所提供)月の湯 山田義雄、山田良子

(エレクトーン奏者 おがた あきのり)